

氏名	都地友紘
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 5211 号
学位授与の日付	平成 27 年 9 月 30 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目	Serum level of soluble interleukin-2 receptor correlates with CD25 expression in patients with T lymphoblastic lymphoma (リンパ芽球性リンパ腫患者における可溶性インターロイキン2受容体血清値とCD25発現の関連性)
--------	--

論文審査委員	教授 松川昭博 教授 岩月啓氏 准教授 金廣有彦
--------	--------------------------

学位論文内容の要旨

高悪性度リンパ腫では可溶インターロイキン 2 受容体 (sIL-2R) 血清値が高値を示すことが知られているが、高悪性度リンパ腫であるリンパ芽球性リンパ腫 (LBL) ではしばしば sIL-2R 血清値が低値であることが経験される。今回、我々は 23 例の T 細胞 LBL(T-LBL) 症例について検討を行い、sIL-2R 血清値と CD25 の免疫組織化学的な発現の関連性についても解析した。

T-LBL 患者における sIL-2R 血清値 (302-1467 U/mL, 中央値 593 U/mL) は、対照群の T 細胞性リンパ球性白血病、びまん性大細胞性 B 細胞性リンパ腫 (DLBCL)、末梢性 T 細胞性リンパ腫、非特異群 (PTCL-NOS) 患者の sIL-2R 血清値と比較していずれも有意に低値 ($p<0.001$) であった。T-LBL 患者の腫瘍組織における CD25 陽性細胞数は非腫瘍性の Foxp3 陽性 T 細胞であり、腫瘍細胞に CD25 発現は認めなかった。一方で、DLBCL 患者および PTCL-NOS 患者の腫瘍組織では腫瘍細胞にも CD25 の発現が認められた。T-LBL 患者では sIL-2R 血清値と CD25 陽性細胞数に相関関係がみられた ($p=0.0069$)。

以上より T-LBL は他の高悪性度リンパ腫と比較して sIL-2R 血清値が低値であることが示され、腫瘍細胞が CD25 を発現していないことがその要因と考えられた。

審査結果の要旨

高悪性度リンパ腫であるリンパ芽球性リンパ腫 (LBL) ではしばしば sIL-2R 血清値が低値とされる。本研究では、sIL-2R 血清値と CD25 (IL2R α 鎖) の免疫組織化学的な発現の関連について、23 例の T 細胞性 LBL 症例を用いて解析を行った。T-LBL 患者における sIL-2R 血清値は対照群の T 細胞性リンパ球性白血病、びまん性大細胞性 B 細胞性リンパ腫、末梢性 T 細胞性リンパ腫、非特異的患者の sIL-2R 血清値と比較して有意に低値であった。T-LBL 患者の腫瘍組織における CD25 陽性細胞数は非腫瘍性の FoxP3 陽性制御性 T 細胞であり、腫瘍細胞には CD25 は発現していなかった。一方、比較群では多くの腫瘍細胞に CD25 の発現を認めた。以上より、T-LBL 患者での sIL-2R 血清値が低いのは腫瘍細胞に CD25 が発現していないためと結論づけた。また、腫瘍細胞内にある制御性 T 細胞が T-LBL の悪性度に関わる可能性を示唆した。症例数が少なく、症例の感染の有無などの除外が不確定で、同一患者での病気経過中の sIL-2R 測定が成されていない、など、検討課題はあるものの、高悪性度 T-LBL での sIL-2R の低値を確認し、その原因を提示した点は評価できる。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。